

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	加藤一聖 ( かとういっせい )
所属・資格 (※学生の場合は課程・学年を記載)	博士課程 2 年
発表年月 または事業開催年月	2021 年 9 月 20 日
発表学会・大会 または事業名・開催場所	第 76 回日本体力医学会大会
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	加藤一聖, 永島計
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	マスク着用が暑熱下運動中の深部体温変化に及ぼす影響
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p>【背景】サージカルマスクは、呼吸器系の感染症の予防に広く用いられる。しかし、高温多湿な環境での激しい作業や運動の際には、熱中症のリスクが懸念される。本研究では、このような環境下における軽度の運動時に、サージカルマスクの着用が熱中症のリスクを高めるかどうかを検討することを目的とした。【方法】12 名の参加者が、サージカルマスクを装着または装着しない状態で、傾斜 5%、環境温度 35°C、相対湿度 65%、時速 6km で 30 分間のトレッドミル運動を行った。直腸温度 (T<sub>rec</sub>)、外耳道温度 (T<sub>ear</sub>)、平均皮膚温度 (mean T<sub>skin</sub>) を評価した。また、顔面周囲の皮膚温度と湿度 (T<sub>face</sub> および RH<sub>face</sub>) も評価した。顔面および全身の温度感覚・不快感・湿度感覚に加え、疲労感、口渇感を、Visual Analog Scale を用いて評価した。【結果】T<sub>rec</sub>, T<sub>ear</sub>, mean T<sub>skin</sub>, T<sub>face</sub> は運動中に増加したが、両試行間に差はなかった。運動中の RH<sub>face</sub> は、マスク試行の方が高かった。顔面の温熱的不快感、疲労感、口渇感、2 つの試験の間で差がなく、運動によって増加した。【結論】サージカルマスクの着用は、高湿度暑熱環境での軽度の運動において、熱中症のリスクを増加させないことが示唆された。</p>	

※無断転載禁止